

# や

これは世につたえておきたい  
かたっておきたい  
わが胸の底から真実のおもい  
人生幾山河のめぐりあい  
あの日の風やひかり そして空のひとひら  
哀歓のかがり火に生きた幾年月の路  
「自分史図書館」はその証言館です。

## 創刊のことば

自分史図書館館長 椎窓 猛

やあ ya! みなさん、あけまして、新春、慶祝申し上げます。自分史図書館だより「ya」は日本古代史に伝わる郷土の女神八女津媛のyaであり、八女地域のyaであり、また矢部川流域のyaという意味をこめて、名づけました。

八女の風土に生きる証しを記録する「自分史図書館」。その呼びかけをする情報発信の意味で、「やあ」「ya」こんにちは、みなさん。おたがいに胸をひらき、心から真実を語り、伝えあう、そんな書物の宝庫にしたい!という願いのもとに「自分史図書館」は発足いたしました。

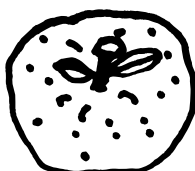
どうか、みなさんのあたたかい思いやりの心で、この「自分史図書館」を地域、ふるさとの地恵蔵に育てあげたいものです。



八女の民芸界では第一人者の松田久彦さんの近著。

作家小島直記先生の評。(月刊「致知」H16・6月号)「八女市広報誌連載の松田久彦氏の随筆は毎回すばらしい内容です。呉津女さんの話など、特に心をひかれた」。

この一冊を手にとれば、八女の伝統工芸の名工、古い八女の町並みにその美しい伝統、先人の知恵を読みとることができる好著である。



娘のくれし湯呑み茶わんは一年中桜の花が咲いております  
沈みゆく太陽光に真向かえり山も畑も犬も私も  
暖かき冬の陽射しをよろこびて大根は土に身を太らす  
作業終えたる高菜畑に舞いおりて土の小虫を啄む野鳥  
畑仕事一気に終えて鍬の土落とす背よりくる冬の雨  
冬 内藤賢司

## 国民文化祭絵本大会

八女郡上陽町で開催

グランプリ受賞は

「モンゴルの黒い髪」

22歳のパーサンスレン

ポロルヌーさん。



すぐれた上陽町の企画。町づくり推進課のみなさん、牛島町長さんの熱意で未来に生きる子供たちへのすばらしいメッセージが結晶した。

## 古賀メロディーの思い出

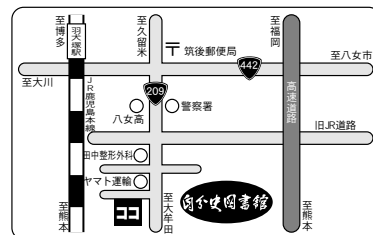
エッセイ集 — 古賀政男顕彰会刊



つらかったあの日  
楽しかったあの頃  
すぎさった遠い日々  
古賀メロディーによせた思いを  
エッセイで綴る

大川市では、古賀政男生誕100年記念事業として全国公募30点を選び一冊にまとめて刊行。遠くは海外、イギリス・ロンドンから、そして全国各地から、年代も20代から80代まで幅広く、古賀メロディファンがいかにも多岐にわたるかが証明される。ほんとうに多くの人々に愛され、歌いつがれているかが読みとられる。古賀政男の曲は激動の昭和時代を生きた人の感情をもっともよく表現したといえよう。「誰か故郷を想わざる」「影を慕いて」「酒は涙か溜息か」「東京ラブソニー」「男の純情」「人生の並木路」それぞれの歌に人生哀歓の諸相が影をうっている。

開館 午前9時～午後5時30分 入館無料  
休館 日曜・第2・第3土曜、祝祭日、年末・年始、その他休館することがあります。予めご確認下さい。





人生史サークル会誌『黄櫨』21号発刊  
この号の表紙は画家大隈長生さんの作品。林立する石燈籠は八女の古代史を仄かに映しだす。さて、21号には52篇の作品集録。昨今、深夜徘徊の非行生徒の「夜回り先生」水谷修先生の本が飛びきりヒット。講演でもひっぱりダコのようなのだが、この号でも元教師野中勝美先生の「出会った子ども達」を読めば素朴平凡でも、子どもたちにそそがれる「愛」のまなざしによってすく

すくと伸びやかに、たくましく育つという真実が読みとられる。書き方ノートで、大きなまるをもらった子が家で「母ちゃん、今日は肥えたまるをもらったよ」と大よろこびで報告の子。○、✓の重みを子どもから教えられたといった教壇回想。

いろいろ病気をしたからこそ、しみじみと人の情けを味わい感謝の思いを、月足美智子さん。50回忌の法要、線香の煙りのなかにお姑さんの姿を思いうかべる山口瑞枝さん。

あの昭和戦中戦後の困窮時代を乗り越えてきた私の青春を語り伝えたい下川久枝さん。鯛の骨がノドに刺さっても大丈夫という末安良行氏の経験談の妙味。『やまなみ』の大歌人近藤雅美氏は、駅のアナウンスが「間もなく列車が参ります。危険ですから黄色い線の内側まで下がってー」汽車とはそんなに危険なものか、なにか悪いことでもするのか、もっと優雅に言えないものかと歌人らしい感覚からの提唱。駅長さん、如何ですか。

かくの如く人生、社会、世相を描きだした内容満載。さらば早々に手にとって、一読、精読、味読。感想あれば、遠慮なくこの「y a」へ。(T・S)



『80年の傘の下』 山村知世夫  
現役の頃は日経新聞の「私の履歴書」をよく読んだ。功成り名を遂げた方の履歴書である。只単なる一枚の紙に羅列された履歴ではなく、経歴を横糸に、生きざまを縦糸にして織りなした人生の記録である。どの履歴書にも感動し、感銘をうけ、老後の生活のありように憧れたものである。

今考えれば立派な自分史である。そうした自分史を書けるのは、功成り名を遂げた所謂有名人であって、私のような何の変哲もない一介の市井人には、全く無関係だと思っていた。しかし黄櫨の会の講義の中で、自分史を執筆するとういことは、これまでの自分を見つめ直し、これからの人生にいきいきと挑戦していく活力と、生きがいを創るものである、と教わった。

だが、私の「八十年の傘の下」は、そんなに大げさに考えて作ったものではない。「黄櫨」「福壽草」に掲載された文章を主に、小学生の時の綴り方、中学時代の作文、青年期の論文、社会人になっての社内報のエッセイを加えて、何となく自分史らしい体裁を整えた本を作ったに過ぎない。

先輩・同僚・友人知人に贈呈した直後、北海道や東京等の遠方からも、続々電話がかかり手紙が殺到した。その素早い反応に却って面くらった。私が懐かしいと思っている人々が私の片思いではなく、先方も共有した時代というか時期を、その中にいる私を含めて懐かしがられている事がわかり大変嬉しかった。ある人達はこれを機に小さなOB会を作られ、あるグループは懇親の宴を開き懐旧談に花が咲いたと言う。

八十年間に接した多くの人々の庇護の下に、自分は生かされてきたのだという八十年の傘の有り難さを、改めて痛感した。

## 受贈図書紹介①

雑木林	黒木 三郎	国分寺市
傘寿追憶螢雪遥かなり	内山 末吉	春日市
海に近い家	野庭由恵子	大和市
92年間のメッセージ	北原 政雄	久留米市
虫おいまつり	平田 友武	八女市
教育に生きる	富安 明	八女市
画・文集 惜別	菊池 光恵	吉井町
由無し事	藤島 哲夫	福岡市
余生を楽しく	山口 昌登	鳥栖市
はたちの記	山浦 欣一	八千代市
歌集 道	村松 幸子	福岡市
父の遺稿	高橋甲四郎	八女市
死と向き合って	井上 寿代	上陽町
上津校区歴史物語	高田 八束	久留米市
自分史マイウェイ	西江 和子	八女市
時流に流されないで	池田 俊彦	福岡市
さあ、前を向いて	木村 悦子	小郡市

詩集 考える木	深町準之助	宗像市
ああ懐かしき青春の	郷原 副由	矢部村
手鎌春秋里のうた	栗原とし子	矢部村
敏夫と共に	河野 雅子	稲築町
KIMONO幻想曲	伊賀 律子	川崎市
ラーメン一代	原野ツタ子	広川町
山峡ろまねすく	椎窓 猛	矢部村
詩集 六十代	富田 淑	福岡県
初年兵	石橋友之裕	三養基郡
先祖考	児玉 罔昭	熊本市
久福木の地名のはなし	石川 保	大牟田市
人生八十余年	蒲池 清己	広川町
私の歩いた道	西木戸 衛	八女市
カッパ漫談	森山 靖章	福岡市
私だけが知っている私のノートから	平嶋忠太郎	八女市
歌集 鶴唳	藤吉 宏子	久留米市
教育為楽	野見山利雄	若宮町
邪馬台国日出る国の本当の話	原田 青夜	飯塚市

## 人生史サークル黄櫨の会

黄櫨の会は平成9年4月発会以来、「書くこと」「読むこと」「語り合うこと」を通して、これからの人生の歩き方を切り開いていくことを目的に、毎月一回の「人生学講座」、年三回の機関誌発行並びに親睦パーティ、年一回の文学研修旅行等を行っています。

話しをすることも楽しい、読むことも、書くことも楽しい。今ま

## 参加へのお誘い

で知らなかったこと、気づかなかったことが見えてくる。生ある限り知識欲・挑戦欲をもち続けければ

代表世話人 末安良行

人生がどんなに充実したものになるのでしょうか。

皆様の参加をお待ちしています。

- 受講会員—受講も投稿もできます。年会費12,000円。
  - 投稿会員—遠方か都合で受講できない人は、投稿のみすることができます。会誌代(3千円)を含めて年会費10,000円。
  - 購読会員—一年3回、会誌発行毎に1冊お送りします。年会費5,000円。
  - 賛助会員—本会の趣旨に賛同され、会誌を購読して頂く方です。会誌発行毎に2冊ずつお届けします。年会費10,000円。
- ★お尋ねは事務局 〒834-0025 八女市大字祈禱院563 ☎0943-24-2113 東迄どうぞ。